

校長通信 未来へのスタート

2024. 5. 13 文責 川口 雅哉

「あいさつの大切さ」

4月の朝会で、子どもたちにむけて、次のようにあいさつをしていきたいと思いますと呼びかけました。

あかるく **い**つでも **さ**きに **つ**づけて

晴れの日も雨の日も、毎朝地域の方々と一緒に校門で子どもたちをあいさつで迎えています。時には、無表情の子、眠そうな表情をしている子、なかには一緒に歩く友だちと話に夢中になっている子もいますが、みなさんにあいさつをして声をかけることで、少しでも元気になってほしいと思い（自分自身も元気になりたいと思い）明るくあいさつをしようと毎日取り組んでいます。

最近、大きな声で元気にあいさつをしてくれる子や、自分から先にあいさつをする子が少しずつ増えてきているように感じます。また、教室を巡回していると私を見つけて真っ先にあいさつをしてくれる子や、放課後に『校長先生！』と遠くからでも声をかけてくれる子が増えてきたようにも感じます。とてもうれしく、大変気持ちのいいものです。

あいさつをすることは、心理学的に言えばひとりひとりの存在を認める行為だそうです。「誰かに認めてもらいたい」という欲求(承認欲求)を人は誰もがもっていて、SNSの投稿で読者から「いいね」をもらってうれしくなることも、その欲求の一つかもしれません。

「おはよう」「さようなら」「ありがとう」などとよびかけることは、「あなたを大切にしていますよ！」というメッセージになるのだと思います。私も、校長に就任してわずか1ヶ月ほどですが、子どもたちのあいさつの声によって、自分が認められ、また励まされているような気がするのです。

あいさつの取組は、月に1回(第3金曜日)のあいさつ運動の日もあります。校門を入れてすぐのところで、委員会の子どもたちがあいさつをしてくれる日です。この日は、天理警察署少年補導員のみなさんもあいさつ運動に参加してくださっています。また、少年補導員の方々だけではなく、地域のみなさんも日々安全を見守りながら、子どもたちにあいさつをしてくださっています。

柳本小学校の一人でも多くの子どもたちが、自分から率先してあいさつができるようになってほしいですし、あいさつの輪がどんどん広がっていくことを願っています。

民生児童委員さんの授業

5月13日(月)に、民生児童委員さんの果たす役割について6年生を対象にした授業が柳本公民館であり、10名の委員のみなさんが来てくださいました。小学校では、毎週木曜日に1年生の下校支援をしてくださるとても頼りになる方々なのですが、民生委員として高齢者の見守りや住民への生活相談やサポートなど、地域に暮らす人々が安心して生活できるように、話を聞いたり寄り添ったりしてくださっていることが、授業を通してよくわかりました。子どもたちや保護者、学校関係者だけでなく、柳本にとって頼れる存在ですね！

改めて委員のみなさんに感謝をするとともに、これからも、よろしくお願い致します。